

まつぼっくり



学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」

よき思い出を！ (子どもたちが成長するために)

令和8年1月9日(金) 熊本日日新聞

右の投稿文章は、9日(金)の熊本日日新聞に掲載されていたものです。印象に残ったので引用させていただきました。投稿された有働さんの高校・中学時代のことです。奨学金の貸与を受け、朝は早くから新聞配達、片道1時間の通学、帰宅してからは農作業、さらに祖父の入浴介助。自分の勉強ができるのは深夜で毎日睡眠不足。今で言うヤングケアラーです。普通の生活ではありません。私には絶対できないと思います。

そして、それを知っている教員が、授業中に有働さんをさらし者にしてしまうのです。とんでもないことだと思います。この文章を読んだときは、衝撃でした。同じ教員としてとても残念に思いました。その教員のその時の心境を聞きたいものです。

しかし、有働さんは心ある教師と出会っていました。中学3年時の担任白田先生です。無理してギリギリの所で生活している有働少年に対して、「無理してないか、身体大丈夫か」と気遣う関わりをしておられます。70を過ぎた方が、50年以上前の教員の関わりをしっかりと覚えておられるのです。

改めて、児童生徒に関わる教師の人としての思いやりの心の大切さを再確認しました。三角小学校でも「ゆたかな心の育成」は大きな柱の一つとしています。

関わる教員に豊かな心がなければ、育つはずがありません。本校の職員も有働さんの文章の中に出てくる後者の先生ばかりだと信じております。子どもたちが、将来大人になったときに、よき思い出となる教員集団に、さらに近づくようチームワークを大切にして精進してまいります。子どもたちの一生消えないよい記憶に残るように！

有働さん引用させていただきました。ありがとうございました。

授業中「辱め」 消えぬ心の傷

有働幸一 71

民生委員

(山鹿市)

年を取ると昔話をしたくなるのは老人のさがだらうか。

今から56年前、私はとある県立高校に通っていた。母子家庭のわが家は貧しかったので、奨学金の貸与を受けながら新聞配達をしていた。

朝4時に起きて自転車

で新聞を配り、7時に帰る。朝食をかき込み、片道1時間かけて高校へ通う。帰ると暗くなるまで農作業。その後、脳卒中で半身不随の祖父の入浴介助等で肝心の勉強は深夜になる。当然睡眠時間は極めて少なかった。

そんな状況の中で「事件」は起こった。私は、過労と睡眠不足で授業中に居眠りをしてしまった。それを承知で先生はある問題に解答せよと私を指名した。私は問題さ

で新聞を配り、7時に帰る。朝食をかき込み、片道1時間かけて高校へ通う。帰ると暗くなるまで農作業。その後、脳卒中で半身不随の祖父の入浴介助等で肝心の勉強は深夜になる。当然睡眠時間は極めて少なかった。

その時受けた心の傷はいまだに消えることはない。悪いのは居眠りした私なのだから仕方がないとしても、さらし者にするような辱めを与えることまでは必要ないのではないかと思ったものだ。

さかのぼること1年、中学3年の私は担任の白田先生の授業を受けていた。同じような生活状況の中、私は自覚のないまま居眠りをしたようだった。

本来なら立たされても仕方ないところだが、白田先生の対応は違った。授業後さりげなく「無理してないか、身体大丈夫か」と私を気遣う声をかけてくれた。私は胸が熱くなり、込み上げるものを感じたのだった。

2人の先生の対応の良し悪しについては議論があるところだと思うが、古希を過ぎた老人の心に一生消えない記憶として残っている昔話である。